

○事業所名	HARVEST			
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44名	(回答者数)	36名
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業向け自己評価表作成日	令和7年2月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士や理学療法士など各専門職を中心とした、お悩みや困り事に対して根拠のある支援の提供をしています。お子様には担当者を配置しますが、担当者の意見に偏ることがないように職種異なるスタッフを配置し多角的にお子様の様子を見ていけるよう配慮しています。	専門性のある職員が評価検査の実施と結果の解釈をします。それらに合わせた個人の具体的目標を設定しています。そこから、目標に合わせた段階的なアプローチの展開しお悩みの解決を目指しています。さまざまな専門職者が1人を見ることで、多角的な対応が可能となっているところが強みです。	職員の個々の能力と全体的な内容やシステムの底上げや強化をするために定期的な内部研修会を実施しています。また、子をケースと捉えてカンファレンスやお悩み相談などをチーム内で実施しています。今後はそれらに合わせて、外部講師の研修をしたり各専門職が相談対応するシステムの導入などでより充実した取り組みにしていきたいと思ひます。
2	就学後のお子様に対し、就学に向けて手厚い対応を心掛けています。多くのお子様就学後の秋ごろまで不安や緊張、悩みがあると感じています。楽しく学校生活を送れるよう就学後の様子の変化などを敏感にキャッチし保護者様や学校と連携を取りながら対応しています。	就学前は各関係機関と就学前の情報共有をし必要であれば相談支援員のもとで支援者会議を設けています。小学校の先生とも可能な限り連携し、送迎時にお話をする時間を設けお子様の変化を追っています。保護者様にはご自宅を中心に様子を共有していただきます。登下校の段階的な対応や放課後の過ごし方、宿題の方法など適宜お悩みに対応しています。	お子様と保護者様がより安心して学校生活を送れるような取り組みがないかを模索しています。自社では過去にも就学後の様子の変化などを聞き取るアンケートを実施したり、伺った悩みポイントをストックしています。今後は、過去データを整理しつつ就学後のスタートが楽しく過ごせるように就学前から準備できるものや対応できるものをより提示できるようなものをご用意できればと考えています。
3	各関係機関と連携し、包括的な支援を実施しています。学校や関係機関での問題に対しては課題の整理を行い、対話を主とした包括的な取り組みを実施しています。	お子様の状況に合わせて、学校や病院機関と連携しています。学校とは、対面でのお話ができるように時間を設けて情報共有をしています。必要があれば、事業所に出向いていただき様子を見ていただいたり相談支援をさせていただいております。お子様によっては、保護者様と学校の担任教員や支援員と連携ノートを作成し文章でのやり取りも実施しています。病院機関では、担当医師と保護者様を通じて情報の交換をしております。	学校によっては連携に後ろ向きな場合があるため、どのように介入していけば互いのメリットになるか模索しています。相談支援員と共に学校への見学に行かせていただいたり、保護者様を通じての情報共有など手立てを変えて対応していきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	フロアの広さやバリアフリー面など環境的に課題があります。集団でダイナミックな動きのしづらさがありますが、物品の配置をかえたり人数的な配慮をさせていただいております。段差の昇降などは、スタッフが付き添いリスクマネジメントを行いながら移動支援の対応をしております。	限られた広さのなかには療育物品があり、マンツーマン以上の支援を実施しているがゆえの人員的圧迫も影響していると考えています。逆に限られた中だからこそできることがあり、お子様のニーズに沿った支援ができていたことも多くあります。多くのニーズがある中で、それらに応えられるような多様な支援のあり方も模索していきます。	物品の整理や、置き場の工夫をさらに改良していきます。必要があれば、利用児童数のコントロールで人員的圧迫を減らし、より有意義に空間を使った療育活動が出来るようにしていきます。よりダイナミックさが必要である活動を行う場合は公園や運動場など地域の資源を活用しながら行っていくことも検討していきます。
2	地域や近隣施設との関わりが少ないと感じており、自社イベントや地域イベント含めて繋がりの薄い印象があります。	感染症の制限が無くなったタイミングで地域のイベントなどへの参加は検討していましたが、日程などのタイミングや児童の状況を鑑みて先送りしていたところがあります。自社イベントを考えていくなかでも、近隣施設などと交流する機会を設けられるよう関係作りから進めていけるよう努めます。	周辺地域のイベント事に関しては、子どもたちが無理なく参加できるものを通じて企画していきます。近隣施設との関わりに関しては、災害時の動きの共有を行う機会を設けるなど連携できる体制を整えていきたいです。自社イベントにおいては、開催地域や参加人数などの参加条件をより応募しやすいように制限を緩和できればと考えています。
3	保護者様同士が上手く情報共有をしたり、保護者間で関われるような後押しが出来ていない部分があります。保護者間でのコミュニティが少ないと感じている反面、各保護者様の思いや考え方も違うためニーズに合わせた対応の難しさも感じています。	保護者様ひとりひとりで違う考え方を持っており、保護者コミュニティ自体を望まれる方とそうでない方がいらっしゃるのも現状です。自社では、保護者様とお子様と一緒に参加するイベントなどを通じて関わる機会を設けてはいます。各保護者様のニーズに応えることができるように、希望者を募って参加するものなどを企画することも必要であると考えています。	自社で行っている「屋外活動イベント」において、お子様主体のイベントに保護者様の関わりという目的を作ることを検討しています。まずは、そういったニーズがあるかなどアンケート聴取から進めていければと思います。お子様に新しい経験を積んでいただく目的の中に、子も親も共に成長できるような目的をもった活動を今後は提供出来ればと思います。

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	児童発達支援/放課後等デイサービスHARVEST GAT		
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～ 令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62名	(回答者数) 43名
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日		～ 令和7年1月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士や保育士など、様々な専門職が支援員として在籍しています。そのため、専門性を活かし、それぞれのお子様の状態把握と支援を提供させていただいています。	専門的な知見を療育に反映できるように、定期的に検査・評価を行ない、そこから得られた結果をもとに療育を行なっています。また、日々支援員同士で情報交換や療育の検討を行うことで、より質の高い療育が提供できるようにしています。	さらに充実を図るための取り組みとして、専門職の視点や知識を支援員同士で共有し、実施できるようにしていきます。同法人内には、作業療法士や言語聴覚士も在籍していますので、日常生活動作や言語面においてもフォローができるように連携を図り、様々なお悩みに対応できるように努めています。
2	1日のスケジュールの流れの中で、集団活動を企画しています。週替わりで「ゲーム」「運動」「工作」「SST」とテーマを決めて、様々な活動を経験していただく機会を設けています。加えて、避難訓練や感染予防、熱中症などお子様の危機管理を高める活動も行っています。	各テーマに沿って活動を企画するうえで、心身機能の向上を促すために新しい活動を日々企画しています。また、お子様が楽しんで取り組めることも大切にしておりますので、夏は夏祭り、冬はクリスマス会をテーマにするなど、季節に合わせた活動を企画し、楽しんで参加していただけるような工夫をしています。	日々の活動において、同法人内の事業所と情報共有を行っています。事業所間で活動内容を共有することで、新たな視点に気付くことができたり、活動に深みが出てくると考えています。
3	当社では2か月に1度「屋外活動」というイベントを企画しております。普段の事業所内では経験できないような様々な体験をしていただくことで、心身機能の向上とお子様の興味関心が広がるきっかけとなるように取り組みを行っています。	同法人内の事業所と合同で行っていますので、普段利用している時に関わる方だけでなく、様々な方と触れ合う機会となります。社会性を育む機会となるようにリーダーなどの役割を作ったり、お子様が積極的に参加できるような工夫をしながら企画しております。	通年行っている企画に関しては、屋外活動を企画するチームを中心に前年度の取り組みを改善し、より良いものとなるよう企画しています。また、新たな企画を生み出せるように日々情報収集を行っています。お子様が楽しく様々な経験を積めるような企画や親子で楽しめる企画など、幅広く検討していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所では学習スペースや活動スペースを設定し療育を展開しておりますが、完全な個室がないため環境面の配慮が十分に設定することが難しいことがあります。	お子様の中には、視覚刺激や聴覚刺激に過敏な様子があることで課題に集中しにくいお子様がおります。個室などの環境を設定することで様子の変化が見られることもありますので、可能な範囲で刺激を調節し、お子様が学びやすい環境を整えて実施したいと考えています。	完全な個室はありませんが、環境面に配慮が必要なお子様に対してはパーテーションやカーテンなどを使用し、周囲からの刺激が最小限となるような工夫をしています。また、ご自宅や園・学校などの情報を共有させていただき、環境による違いについても評価しながら進めていきます。
2	地域の他のお子様や事業所との交流の機会が少ない印象がありました。	当社のイベントとして、2ヶ月に1度「屋外活動」という事業所外でのイベントを実施しておりますが、開催日程やお子様の状況、開催場所の関係から地域でのイベントへの参加や、地域のお子様と交流の場として開催することが難しい状況です。	昨年末に実施した「屋外活動」において三重県総合文化センターのホールを使用しイベントを行いました。今後は、地域の施設を利用させていただき、地域に開かれたイベントの開催を検討しております。イベント内容や運営方法を検討しながら、事業所を利用されているお子様、地域のお子様と交流する機会となり、保護者様を含め満足していただけるようなイベントの開催を検討していきます。
3	当事業所には様々な職種の職員が在籍しており、職種により得意分野や経験に違いがあります。それぞれが専門的な視点を持つことは強みではありますが、専門用語や専門知識に対する職種間の相互理解が難しいこともあります。	支援の場面や支援前後に職種間で意見交換を行っています。また、実践経験の違いなどにより、考え方や理解の仕方に違いがあります。多職種間で使用できるマニュアルの作成や、相互理解に繋がる意見交換の場を多く持つことが必要であると考えています。	当社では2か月に1度、事業所全体での研修の場を設けております。研修においては、各職種の専門分野に関する勉強会を開催し、職員全体の知識や技術を深める機会としております。このような研修の場を活かし、職員同士がそれぞれの専門的な知識や技術を共有し、相互理解を深めながら療育の質の向上に繋げていきます。

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	HARVEST BASEWORKS			
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数)	31名
○従業員評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	現在当事業所には、理学/作業・言語聴覚士が常駐しています。そのため、療育や発達悩み、困りごとに対して専門的な視点を持って対応することが可能です。園や学校での問題に対しては課題の整理を行い、各関係者との対話を主とした包括的な取り組みを実施しています。人員配置にも余裕を持っており、必ずお子さまと1対1以上に対応ができるように心がけています	担当者だけの意見に偏ることがないように、職種の異なる担当者をつけ、様々な方向から子どもの様子を見ていけるように配慮することを心がけています。療育の実施前後において、お子さまの様子を情報共有する時間を設けています。その際には、子どもたちの『できている部分』に着目してアドバイスを行うようにしています。	充実を図るための取り組みとして、現在専門職が職員の悩みを解決する時間を作っています。また、年々内容が向上するよう、マニュアルの見直しを行い、人材育成が停滞しないような工夫を実施していきます。
2	全職員での研修及び会議を設けています。研修や会議では、療育の悩みについて話し合い、意見の交換の場として有効に活用しています。悩みを一人で抱え込まずに解決する場、意見がもらえる場であることで、子どもたちへの向き合い方が変わる場を提供していきます。	会議においては、療育での悩みや困りごとを解決するだけでなく、各職種間での知識や技術を向上させていくための話し合いを行っています。外部講師を呼んだり、職員が自身の専門性を伝達することもあります。	勉強会や研修などを単発的にならないよう、年間スケジュールや目標を制定し実施しております。
3	標準化された評価の中から選定し実施しています。選定された評価を職員全員が一定の方法でできるよう情報共有なども行っています。	当法人においては、全職員が研修や会議にて、評価の使用方法・目的・実施・結果・考察及び解釈などを統合して検討しています。支援の方法が分からない方においても、1から分かるように学べる研修や機会を豊富に設けています。	標準化された評価を全員が正しく使用できるようにしています。そのためのマニュアルも準備してあります。また、職員が使いやすいように評価用紙のアップデートなども行っています。引き続き、評価の一定水準を保つための指導やどのような支援に結び付けていかなどを勉強会や研修などの機会を設けていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	イベントを行う中で園や小学校といった地域や自治体と繋がるイベントの企画が少ない	事業所のイベントとして、地域で行われているイベントへの参加も検討していますが、日程調整や児童の状況、お住いの圏域などを考慮すると全ての児童が参加することは非常に難しい状況です。引き続き、地域や自治体で行われているイベント情報を収集していきます。	活動・イベントにおいては、開催地域の選択、参加人数の増枠、イベントを楽しめる年齢など参加条件を緩和することで、より多くの方にご参加いただけるよう事前準備や調整などを行っていきます。
2	保護者間で繋がりを持てるイベントが少ない	ご利用を頂いている保護者様の中で、保護者間の繋がりを求められる方もいらっしゃいます。しかし、繋がりを求められない保護者様もいらっしゃいます。保護者様自身が参加の可否を行い、保護者様間の繋がりをもてるような企画をしていきたいと考えます。	現在2カ月に1回『屋外活動』を実施しております。このイベントは、保護者様のご参加も可能なイベントでもあるため、今後、保護者様で話し合いが持てるような機会も設けていきたいと考えています。
3	新規採用職員に対しての事業所内での伝達や業務内容の統一化に対して	当事業所では、支援員の所有資格や各々違います。そのため、発達支援を行う際の考え方も異なります。PCDAサイクルを意識し業務に当たっていきます。	現在、新規職員に対し、療育と業務に関するマニュアルを作成し、実施しております。また、実施した指導が理解しやすかったか難しかったかも確認し、マニュアルのアップデートを行っています。引き続き、お子さま・保護者様、地域連携機関に「高い専門性」を提供できるように努めてまいります。

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	HARVEST UNITE			
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数)	40名
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職が常駐しています。そのため、療育や発達への悩み、困りごとに対して専門的な視点を持って対応をすることが可能です。園や学校での問題に対しては課題の整理を行い、各関係者との対話を主とした包括的な取り組みを実施しています。人員配置には余裕を持って必ずお父さまと1対1の対応ができるように心がけています。	療育の実施前後において、お父さまの様子を情報共有する時間を設けています。その際には、子どもたちの『できている部分』に着目してアドバイスを行うようにしています。担当者の意見だけに偏ることがないように、職種異なる担当者をつけ、様々な方向から子どもの様子を見ていけるように配慮することを心がけています。	充実を図るための取り組みとして、強みをさらに伸ばしていくために、専門職が持つ知識や技術の共有に力を入れていきたいと思っています。そのためにまず資格者が何をしたいのかを整理し、職員全体に落とし込みを行い、全体へ周知できるよう勉強会を実施していきます。また、年々内容が向上するよう、マニュアルの見直しを行い、人材育成が停滞しないような工夫を実施していきます。
2	全職員での研修や会議を設けています。研修や会議は、職員が抱える療育の悩みについてしっかりと話し合い、意見の交換ができる場として有効に活用しています。悩みを一人で抱え込まずに解決する場、意見がもらえる場があることで、子どもたちへの向き合い方が変わる場を提供していきます。	会議においては、支援者側の療育での悩みや困りごとを解決することのみならず、各職種間での知識や技術を向上させていくためにはどうしたらよいかを意識した話し合いを行います。職員全員にアンケートを聴取し、外部講師を招聘することもあれば、職員が交代で講師を務め、“教える側”、“教わる側”など役割が交代することで知識や技術が深まるような工夫も絶え間なく行っています。	勉強会や研修などは単発での実施で終わらせるのではなく、実施する目的や獲得したい技術、知識を明確にすることで全員の理解が深まるよう設定していきたいと考えています。
3	児童に対して標準化された評価を使用しています。標準化された評価を全員が使用できることで、児童の様子や状況を全職員が把握・共有できています。	悩みのある子どもたちを支援していく中で、どのように現在の状況を把握していくのかは事業所によって異なると思います。当法人においては、全職員が研修や会議にて、評価の使用目的、方法、実施、結果からの解釈、またその結果からどのような支援につなげていくのかを総合して検討していきます。支援についてのノウハウがない方においても1から分かるよう学んでいける機会も豊富に設けています。	標準化された評価を全員が正しく使用できるようにしていきます。そのためには使用するマニュアルをより分かりやすくし、評価の記入用紙を現場に即して使いやすいようアップデートを行なっています。評価結果を基に、児童の様子を把握し、今後どのような支援を行うのか。という指標を各々が立案していけるよう勉強会や症例検討の機会を設けます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士がつながりを持てるようなコミュニティの作成について検討しており、課題ではありますが様々な意見があり、そういった場を設定するまでには至っていません。	同じ悩みを共有したい。と臨まれる方もいれば、そうではない方もおられます。保護者様自身が参加の可否を選択し、“今”知りたいこと、お父さまが経験したことがないこと。そんなニーズに応えられるような企画が必要と考えます。当事業所では親子で参加できるイベントを実施しておりますが、保護者様、お父さまからアンケートや口コミを聴取しているわけではないので、必ずしもニーズに沿っているかが不透明ですので、多くのニーズに応えられる活動を企画していきます。	当社は2か月に1度「屋外活動」というイベントを実施しています。このイベントは、お父さまが経験したことがないこと、初めて経験するワクワク感の提供を目的としています。今後は保護者様やお父さま宛てに企画のアンケート聴取を検討しています。また、防災知識を学びながら楽しめる運動会や普段の練習成果を発表する発表会などの活動も企画していきます。活動の目的を明確にすることで大人も子どもも楽しみながら、ともに成長を感じられるようなイベントを企画していきます。
2	イベントを行う中で園や小学校といった地域とのつながりや自治体の活動に参加していくという企画が少ない印象でした。	事業所のイベントとして、一般の地域で行われているイベントなどへの参加も検討していますが、日程の調整や児童の状況、お住まいの圏域などを考慮すると全ての利用児童が参加するのは難しい状況であります。各地域で行われている活動やイベントにおいては保護者様から聴取させていただき、情報収集していけるよう努めます。	活動・イベントにおいては、開催地域の選択、参加人数の増枠、イベントを楽しめる年齢など参加条件の緩和をすることで、より大勢の方々にご参加いただけるよう事前準備や調整を行なっていきます。
3	新規職員に対する事業所内での伝達や業務内容の統一が行いにくい状況がありました。職種間における得意分野の違いや専門用語に対する理解の仕方、また経験などによる実践知識の違いなども挙げられるため、相互理解かつ質の向上につなげられることを目指していきます。	当事業所では支援員の所有資格が各々違います。そのため、発達支援を行う際の考え方も異なります。PDCAサイクルを意識して業務にあたっておりますが、個々の理解度合いで伝わりにくさも感じることがあります。法人としてマニュアルを作成し、PDCAサイクルでの業務を再認識できる体制を整えていきます。	保護者様やお父さま、地域連携機関に「高い専門性」を提供できるように努めていきます。そのためにも、PDCAサイクルに基づく働き方を見直し、事業所内で話し合う機会を設けていきます。SWOT分析を行い、考え方の共有をし、事業所、個人としての強み・弱み等を明確にした上で今後も皆様に納得していただける療育を実践していけるようにしていきます。

**令和7年2月1日よりKOMAキッズ鈴鹿、KOMAキッズ鈴鹿2号館は
HARVEST HOMEとして営業しております。**

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	KOMAキッズ鈴鹿 2号館			
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○従業員評価実施期間	令和6年12月2日		～	令和7年1月7日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者児童に対して職員が適切に配置されています。	職員配置の充実によりあらゆるリスクに備えて安全管理を心掛けています。	今後も積極的に研修に参加し職員1人1人の専門的知識の向上を図ります。
2	ICTを用いて保護者の方に児童の発達状況や課題について情報共有が出来るように心掛けています。	ICTでは伝わりにくいことがあれば送迎時により具体的に療育内容や発達状況について共有させていただいています。	積極的に共通機関との連携を取り、『包括的な支援』を心掛けていきます。
3	挨拶・学習・運動等カリキュラムに沿った療育を提供しています。	活動内容が固定化しないよう療法士・保育士の特色を活かし毎日違う活動の提供を行っています。	今後は集団活動のカリキュラムの見直し、専門的な意見を取り入れより良い療育が提供できるよう努めてまいります。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の設備としてバリアフリー化が十分ではない。	日本家屋のため、段差や上り框などがある。	段差や上り框においては必要に応じて補助を行っています。スロープなどで大きい段差は解消していく。
2	地域交流の機会の提供ができていない。	職員が放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他のこともと活動する機会を把握していない。	職員が地域の活動をよく理解し日程調整のうえ児童が参加できる機会を提供していきます。
3	支援センター・学校との情報共有が不十分。	学校への積極的な介入をしておらず、保護者を介した対応をしているため。	こちらから積極的に支援センター・学校との連携を図り、情報共有の場を増やしていきます。